



本誌は、学校経営・運営ビジョンの実施状況や達成結果を保護者や関係者の方に公表することを目的として、本校が発行する通信誌です。

学校評価アンケート集計結果報告

保護者の皆様には、昨年12月に実施いたしました「令和5年度学校評価期末アンケート」にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。保護者・生徒・教員アンケートの集計結果の要点をご報告いたします。なお、本誌裏面には保護者・生徒・教員対象アンケートの集計表も掲載しましたので、あわせてご覧ください。

1 保護者対象アンケート結果の分析

・年度末の全体概況

全体平均値は3.03であり、昨年度の2.97よりも微増している。概ね高い評価を得ている。

・各項目の概況

保護者アンケートでは、多くの項目で国際理解教育の推進、希望進路実現に向けた指導などの各部・各学年・各教科の取組が理解・認知され、3.0以上の評価につながっていると考えられる。本校の教育活動への理解が深まってきていると思われる。

低い評価でも2.9であり、概ね良い評価を得ている。今後も、学校の取組について積極的に情報発信の機会を増やしていくとともに保護者からの意見を真摯に受け止め、さらに改善を図っていきたい。

2 生徒対象アンケート結果の分析

・年度末の全体概況

全体平均値は3.28であり、昨年度の3.11よりも微増している。概ね良好な評価と分析できる。各項目で高い評価を得ている。

・各項目の概況

最も評価の高かったものは項目「7」で評価3.5であった。今年度はオーストラリア研修や1名の長期留学生を迎えることができたこと、希望生徒が参加した海外とのオンラインによる交流、国際理解講座等の充実が評価されたものと思われる。次いで項目「1」と「8」と「9」が評価3.4であった。項目「1」に関して、本校では総合的な探究の時間についてNPO法人こおりやま子ども若者ネットワークのサポートと、生徒もノウハウも蓄積されたことで、生徒たちが主体的に活動できる環境が整ってときたことが評価されたものと思われる。項目「8」に関してはSDGs dayやSDGs weekが定着し、SDGsに関する活動は、本校生にとって日常的なものになってきている。国際交流委員会や希望する生徒が様々なSDGsの実践となる活動を校内外で行っており、その成果をHPで発信している。このため、高い評価が得られたものと考えられる。

低い評価でも3.2である。生徒全体として、積極的に県内外の諸活動に参加する生徒が多く、高い満足感を持って学校生活を送っていると思われる。

3 教員対象アンケート結果の分析

・年度末の全体概況及び中間評価との比較

年度末の全体平均値は3.03であり、昨年度末アンケートの数値同様であった。全体として概ね良好な評価と判断できる。

・各項目の概況及び中間評価との比較

昨年度末評価より評価が上がったものは4項目、下がったものは10項目、変わらなかったものは6項目であった。一番評価の高かったものは項目「7」、「9」で評価3.5、次いで項目「14」が評価3.3である。これは、オーストラリア研修や海外とのオンライン交流、探究カフェや山の学校等、地域社会と協働した取組が評価されたものであろう。また、国公立大学に7名合格したことも評価が高くなっている要因であろう。一方、最も評価の低かったものは項目「4」、「10」、「20」で評価2.8である。しかし、生徒の同項目の評価では全体平均の数値または全体平均値に極めて近い数値となっている。この項目に関しては、教員と生徒の受け止め方が違うようである。今回、評価の低かった項目「4」については、カリキュラムの開発の根幹であるため、職員間で共通理解のもと実施しながらさらなる改善を図っていきたい。

*なお、アンケートに際し、保護者の皆様、生徒からよりよい学校づくりのための様々なご意見をいただきました。今後とも貴重なご意見を真摯に受け止め次年度以降の学校づくりや生徒指導に活かしていくとともに、より充実した学校評価活動を行って参りたいと存じます。